

## 令和3年度 調査研究テーマ 研究代表者等一覧

大分類	目的	研究テーマ	研究概要	研究代表者	研究分担者
【大テーマ】(1) 南海トラフ地震に関する調査研究	南海トラフ地震への県民のさらなる「わがこと感」の醸成や、地震発生直後の迅速な津波避難など、県民自らによる防災行動につなげるため、南海トラフ地震に関する発生メカニズムや地震像を「見える化」する。	津波等の影響による既存建物の性能評価に関する研究	津波が建物に与える影響を実験的に調べる。津波は大きく分けて2種類(定常ケースと衝撃ケース)を想定し、浸水深も実験変数とする。 また、建物の大きさ、形状も変数として、各種ケースで建物に与える波圧を水路実験で調査する。 なお、先行研究である程度津波の影響の評価はできているが、水路の影響で誤差が大きいため、本年度は、より大規模な水路の設計を行い、実験を実施し、結果の評価を体系的に行う。	工学研究科 川口 淳	竹村 颯馬(大学院生)  阪口 大河(建築学科生)
【大テーマ】(2) 風水害に関する調査研究	台風接近時等における早めの避難など、県民自らによる防災行動につなげるため、風水害に対する県内各地域の脆弱性を明らかにするなど、地域に起こり得る風水害像を「見える化」する。	気象災害・水災害を対象とした避難判断のための情報収集の高度化に関する研究	本研究では、三重県の河川網のうち、どの程度の部分が、予報や予測(つまりハザードマップ)の恩恵に浴しているか、逆に言えば、どの程度の河川が、「全く避難判断ができない」状態であるかを調査する。 上述のような、「面倒を見てもらってない河川」流域で、「どのような避難判断に資する情報が得られるか」「行政がどのような情報を発することができるか」を調査する。	生物資源学研究科 葛葉 泰久	松浦 利昭(研究員)  二村友康(大学院生)
【小テーマ】(1) 防災・減災一般に関する調査研究	地域防災力の向上につなげるため、防災・減災一般に関する課題を「見える化」する。	災害時における避難行動要支援者(特に在留外国人)に関する地域防災上の課題と有効な対応策に関する研究	災害時における在留外国人にとって課題となった事例等に関する調査【文献調査、聞き取り調査など】を行う。 また、三重県内の対象地域を選出し、在留外国人と地域との関係性などの実態に関する調査を行う。	地域圏防災・減災研究センター 水木 千春	葛葉 泰久(同センター)  塩冶 由貴(研究員)  下川 りさ・今井 爽斗 (生物資源学部生)